

国際福祉機器展H.C.R.2018 に出展します

世界の福祉機器を一堂に集めたアジア最大規模の国際展示会『国際福祉機器展H.C.R.2018』に出展します。今回のデベロブースの目玉は、初お披露目となります新型浴槽やスライディングボードなどの新商品や、タンカスケール「快」や炭酸泉発生装置、簡易浴槽FL-8Mなど盛りだくさんです。



主な展示予定

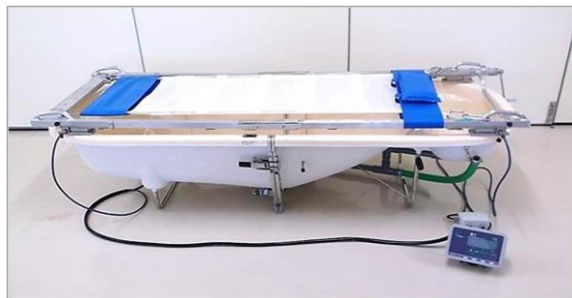
1. 移動入浴車 OB-N660D2 (軽自動車)
2. 新型浴槽 H.C.R.2018にて初公開
3. 訪問入浴用スライディングボード H.C.R.2018にて初公開
4. タンカスケール「快測」
5. 簡易浴槽 FL-8M
6. 炭酸泉デモンストレーション



移動入浴車 OB-N660D2 (軽自動車)

分割浴槽の接続部を大幅に改良した新型浴槽(特許出願中)や、ベッドから浴槽へのご利用者の移乗をよりスムーズに介助ができるスライディングボードなど、業務の効率化や負担の軽減などに期待できるアイデアが満載です。

その他にも、タンカスケール「快測」や炭酸泉発生装置、在宅や施設・病院等向けの簡易浴槽FL-8Mなど、入浴介助を多角的にご提案させていただきます。



タンカスケール「快測」



簡易浴槽FL-8M

『第45回国際福祉機器展H.C.R.2018』

東京ビッグサイト東展示ホール 東京都江東区有明3-1-1
平成30年10月10日(水)・11日(木)・12日(金) 10:00-17:30 ※12日は16:00終了
<https://www.hcr.or.jp>(ホームページより事前入場登録が可能です)

70歳以上、初の20%超え 高齢者(65歳以上)は44万人増の3557万人

敬老の日になみ総務省が9月16日に発表した人口推計によると、70歳以上が前年から100万人増の2618万人で、総人口の20.7%を占め、国民の5人に1人に相当する割合を初めて超えました。

65歳以上の高齢者は44万人増の3557万人となり、総人口に占める高齢者人口の割合は28.1%と、過去最高を更新。うち女性が2012万人と2000万人台に達し、男性の1545万人を大きく上回りました。

また、世界的にみても日本の高齢化率は高く、イタリア(23.3%)やポルトガル(21.9%)、ドイツ(21.7%)に比べても大幅に突出しています。

高齢者の人口割合(上位10か国)(2018年)

順位	国名	総人口(万人)	65歳以上人口(万人)	総人口に占める65歳以上人口の割合(%)
1	日本	12642	3557	28.1
2	イタリア	5929	1382	23.3
3	ポルトガル	1029	225	21.9
4	ドイツ	8229	1783	21.7
5	フィンランド	554	120	21.6
6	ブルガリア	704	148	21.1
7	ギリシャ	1114	229	20.6
8	クロアチア	416	84	20.1
9	スウェーデン	998	201	20.1
10	フランス	6523	1308	20.1

※日本の値は、「人口推計」、他国は、World Population Prospects: The 2017 Revision (United Nations)
注)日本は、9月15日現在、他国は、7月1日現在

我が国の高齢化は今後さらに伸び続け、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、約20年後の40年には35.3%まで上昇する見通しです。社会保障制度の見直しや働き手確保など、超高齢化社会への早急な対応を迫られている現状を改めて認識する必要があります。

古今東西

その4 江戸っ子とあつ湯

お風呂にまつわるちょっとした小話「お風呂古今東西」は、お風呂infoにて連載中。<http://o-fu-ro.info/>

江戸っ子はあつ湯が好きだったと言われています。そもそも「江戸っ子」という言葉が使われ始めたのは、江戸時代中期頃のこと。

都があった京都や大阪に対する対抗意識から生まれたものであり、江戸っ子は見栄を張るのを良しとしてきました。

風呂が熱くても、「こんなぬる湯」などと言って、何食わぬ顔をしてさっとはいるのが、江戸の粋、いなせだと言われたそうです。

明治時代に入ると、外国人から日本の銭湯の湯温が高すぎることを指摘され、東京府からも「熱すぎる湯には入るべきではない」との指導が始まります。とはいえ、長年の習慣はなかなか変わらなかったようです。

今でこそ、高温浴により体に負担がかかることが知られていますが、当時の人々の考え方や生活の様子を伺い知ることの出来る習慣です。



訪問入浴介護のお申込み・お問合わせは